

「ふつう」という言葉

小 五

わたしには、ダウンしようというしょう害のあるいところがいます。Aさんは、わたしと同じ小学五年生の男の子です。ダウンしようとは、せん色体のいじょうで起こるしょう害です。

Aさんは、思っていることが上手に相手に伝えられません。思いつきり走ったり早く動いたりすることが苦手です。でも体がやわらかいので、ダンスがとても上手です。お話も苦手だけれど、Aさんの速さに合わせて話をすれば、わたしの思いも伝わります。遠くに住んでいるので、なかなか会えないけれど、わたしは

Aさんが大好きです。

しばらく前に、近くの公園で散歩をしていた時、Aさんと同じしょう害のある人たちに会いました。大きな声でさけんだり、とつぜんあく手をしてきたりして、少しびっくりしました。近くにいたおばさんたちがその人たちを見て

「ふつうじゃないからかわいそう……。」と言いました。わたしはその時、「『ふつう』って何。」と思いました。ふつうとは「特に変わっていないこと。ごくありふれたものであること。」という意味です。わたしたちの周りにはいろいろな人がいて、考えていることもちがって、わたしの知らないこともたくさんあります。いろいろな人がいるので、一人一人が感じる「ふつう」も、一人一人ちがうと思います。「みんなと一つでも

ちがうとふつうじゃない、かわいそうと言われるのかな。」と、わたしはとても悲しくなりました。Aさんは、できないこともたくさんあるけれど、学校では友達が、家では家族が協力してくれます。だからわたしは、かわいそうとは思いません。

できないことがある人のお手伝いができる人がしていくことが当たり前になり、しょう害のある人もない人もおたがいをみとめ合い、協力し合っていけば、「ふつう」という言葉もいらないし、かわいそうと思ったり、言ったりする人もいなくなくなると思います。みんながおたがいを理解し合って、毎日が楽しく、そして生活しやすい世の中になればいいなと思います。

「『ふつう』じゃないから、かわいそ

う……。」と思う人が一人もいなくなる。そういう日がいつか来ることを願っています。